



**一步を踏み出すために！**

**各事業所やフロアーに掲示**

## **永 寿 会 通 信**

### 黄色い飛行船 第15号

2016年 8月29日

赤とんぼが群れ飛ぶ気候となり、本部前の小さな水田の古代米も黒々とした穂を出してきました。

季節は変化し、周囲の景観は変わっていきませんが、法人事業も同様に、運営の基準や内容も次々と変容しています。また、法人組織そのものも本年4月の社会福祉法の改正により大きく変わろうとしています。法人の憲法ともいべき定款内容や規定・規則類の変更や修正を余儀なくされて、正にシュトルムウントドラング（疾風怒濤）の状態にあります。

こんな状態だと落ち着いた安心の意味の「安寧」（あんねい）が欲しくなります。

所謂まったりとした楽しい関係ということですが、これはなかなか持続しません。次々と関係が変化したり、状況が変わります。また、人の気持ちも動き、老いたり健康を害したりして常に同じ状態ではありません。

こんなことを考えていると、18世紀から19世紀に大きな存在であったドイツの哲学者ヘーゲルの弁証法的思惟方法が参考になります。何か難しいようですが、簡単に言うと、一つの状態があり、それをテーゼ（定義）とすると、それを揺るがしたり、矛盾や問題から、アンチテーゼ（反対の定義）が生まれ、そしてその相克から高次元の見識・結論であるジン・テーゼに至り、その繰り返しが成長や発展となるという理論的分析方法です。世界や事物の変化・発展の過程を本質的に理解する上で役立ちます。簡単に言い換えれば、人が向上心を持つということ、公人や機関、事業でいえば組織改革や運営の点検の元とも言えます。

永寿会も法人全体として、今の時代背景や課題、事象に関心を持ち続け、現状に自己満足することなく、明日に向かって前進、飛躍していかなくてはなりません。

社会福祉法人が特に優遇される時代ではなくなり、イコールフィティング名の下に営利会社との競争を余儀なくされる局面が多くなりました。これからも努力をし続けなければ乗り越えていくことが出来なくなります。皆さんも現在の状況に満足することなく、「昨日よりも今日、今日よりも明日」へと、心のバランスに留意しながら、努力と協力をお願い致します。

以 上